



休業期間中に「おすすめの一冊」というテーマで、本の紹介文を書いてもらいました。
その中から、学年別にいくつか紹介したいと思います！

三年生 ■■■さん

『心が聞こえるわたしと、音のない君の物語』 あさぎ 千夜春著

私のおすすめの一冊は、『心が聞こえるわたしと、音のない君の物語』という、人の心を読む能力がある志摩と、難聴をわずらっている翼の話の物語です。

この本の中で私が一番心に残った言葉は、志摩の能力が翼に知られてしまったときに翼が言った、「志摩ちゃんは志摩ちゃんだ」という言葉です。この言葉を見たとき、「私は私でいいんだ」と思いました。なんだか前向きになれた気がしました。

地味で目立たない、道端に落ちている石ころだと自分で思っている志摩を翼が変えていくときの二人の心情の変化などを考えながら読んでみると二人の成長に気づくことが出来ました。私はこの本を読んで、たとえ人の心が読めて、耳が聞こえなくても自分を責めずに自信を持って生きてもいいんだと思えることが出来ました。人を勇気づけてくれるような話だと思いました。話に入り込めて、とてもいい話だったので、もう一度読んでみようと思います。



二年生 ■■■さん

『思わず考えちゃう』 ヨシタケ シンスケ著

この前、テレビにヨシタケ シンスケさんが出ていました。その時、「この本を書いた人はこの人だったんだ！」

と驚きました。前一回学校にあるヨシタケシンスケさんの絵本を読みました。私の想像を超える考えばかりで、とても面白かったです。今回読んだ本も、身近にある小さいことでも、ヨシタケさんは記憶していて、すごいと思いました。

私はじっくり考える事が嫌いです。すぐに先生に聞いてしまいます。ヨシタケさんのようにふと立ち止まって考えると面白いことがいっぱいあるんだと、この本を読んで感じました。もっと周りを見渡して、小さなことでも、色んなことを想像してみたいと思いました。



一年生 ■■■さん

『ランディ・メッセンジャー ～全てはタイガースのために～』 ランディ・メッセンジャー著

この本は、僕が好きな本の中の一冊です。この本で、僕がおすすめするところは著者のメッセンジャーという人におそいかかった悲劇です。それは、骨折です。プロ野球が開幕して、オールスターの前の巨人戦で阿部慎之助選手のライナーが右足くるぶしに当たって、はくり骨折をしました。

しかし、メッセンジャーは諦めず、ギブスをつけていても自分で出来ることを探し一生懸命に自分で治そうとしていました。すると、予定よりも早く治ったというところがおすすめです。やっぱり、いつも応援をしてくれているファンのため、チームメイトのために頑張って治そうと思っていたので、早く治ったのだと思います。僕もこういう人になります。

